

企画概要

株式会社仙台放送は、プラスチック製品の製造を手掛ける株式会社コバヤシの協力のもと、「東北・みやぎ復興マラソン2023」の大会で使用したランナー用の給水カップを回収して、リサイクル加工し、新たに植木鉢をつくる『給水カップリサイクルプロジェクト』を実施しました。



2023年大会で回収した給水カップは約130キログラムで、約1000個のリサイクル植木鉢を製造しました。

地元の農業高校とタイアップ

本プロジェクトは、地元の宮城県農業高校とタイアップし、植木鉢のサイズや活用方法について事前に生徒たちからアイデアを募りました。寄贈したリサイクル植木鉢1000個は、学校の園芸実習や地域住民を招いた出前授業などで活用いただいています。



※宮城県農業高校は、津波の影響で殺風景になったマラソンコースをコスモスで彩る活動や運営ボランティアとして大会当初から協力をいただいています。

これからの取り組み

今年の大会では、去年以上にリサイクル回収する給水カップの総量を増やすべく、各エイドステーションでの周知を図ります。また、回収するエリアを全エイドステーションに広げ、可能な限り回収するべく取り組みを進めています。

また、今年はリサイクル植木鉢を寄贈する学校を増やし、より多くの地域で活用いただけるように計画を進めています。



ドリンクカップの分別にご協力をお願いします

できるだけ
ドリンクカップと
他のゴミを
分けてください。

写真のようにカップだけが
入った袋にすることが理想です。



見える範囲で、気がついたものだけで構いません。
次のようなものを取り除いていただくとリサイクルしやすいです。



【ゴミ分別の呼びかけポスター】



東北・みやぎ復興マラソン2024 給水カップリサイクルプロジェクト

参加者への告知

大会に参加する全ランナーに配布される冊子に、リサイクルプロジェクトの記事を掲載しました。



津波で色を失った故郷に“彩り”を添えたい。
コースをオレンジ色のコスモスで満たし、
復興した街への歓迎も表現。

宮城県農業高等学校
◎宮城県名取市

2024年大会にボランティアとして参加予定の皆さん、中央2名は前年大会のTシャツを着用。



エイドで使用された給水カップを回収し、リサイクルして製造された植木鉢。みんなで活用方法を模索中。

宮城県農業高等学校は、明治18年に宮城県仙台市で宮城農学校として開校した日本最古の農業高校です。昭和52年に名取市下増田へとキャンパスを移転した後、農畜産業の学びを通して自立心を育み、農業のスペシャリストを輩出してきました。東日本大震災では津波を受けて校舎すべてが被災。同年秋に仮設校舎での授業が再開し、7年の歳月を経て海岸線から約9kmの場所により充実した新校舎が建ちました。

東北・みやぎ復興マラソンと同校の関わりは第2回大会から。マラソンコースが旧校舎のあったエリアを走ることから、「津波の被害で殺風景になってしまった故郷に“彩り”を添えたい」と、同校農業経営者クラブの生徒が主体となって「コスモスプロジェクト」を発案。大会のキーカラーであるオレンジにちなみ、コース沿いの花壇をオレンジ色のコスモスで満開にする取り組みが始まりました。しかし津波の塩害によりそのままではコスモスが育ちにくいと、花壇の清掃や雑草抜きを経て、土づくりにも奮闘。有志で種を蒔き、大会当日に満開になることを願って生長を見守りました。

このプロジェクトは翌年以降も受け継がれ、年々パワーアップ。2023年大会では、台風や低温などの影響を考慮し、プランターでコスモスを育て、大会直前にコースへと運びました。2024年大会に向けては、地元企業と共同で、大会で使用した給水カップをリサイクルして作った植木鉢を、学校や地域住民を交えた課外活動で再利用するプロジェクトも進行中です。

また、同校の有志生徒は「コスモスプロジェクト」だけでなく、当日のエイドステーション運営ボランティアとしても参加。ランナーとのふれあいに、他では得られない楽しさを感じているといいます。

「去年初めてボランティアとして参加しました。先生と一緒に大声で応援したこと、走っている方達とハイタッチしたことが印象に残っていて、今年も参加することにしました」

「エイドステーションでランナーの皆さんにおにぎりを渡すのが楽しくて、また体験したいと思って参加しました」
「僕は今年が初めてです。ずっとボランティア活動をやってみたく

て、今年は部活や勉強との両立もできそうだったので参加を決めました。コースで直接応援できるのが楽しみです」

「県外の方に復興した名取を見てもらえるのが嬉しい。来年はもっとボランティアが増えるといいなと思っています」

ボランティアの引率を務める同校教頭・佐藤淳さんは、年を追うごとに校内での輪が広がり、生徒の自主性が高まっていることを実感していると言います。

「当校にとっても思い入れのあるマラソン大会です。全国に巣立って行った卒業生たちが、旧校舎の下増田エリアに集うきっかけになればと思います。また、生徒たちが育てたコスモスで、我々の歓迎の気持ちを表現できれば嬉しいです」



県外から来るランナーの方に
復興した名取を見てもらえること、
直接応援できることが楽しみ



2020年の活動の様子。この年はコロナ禍のためオンライン開催となりましたが、事前に設定されていたコース沿道は例年通りコスモスに彩られました。

HPへの掲載

大会公式HP URL: <https://www.fukko-marathon.jp/>

SDGsへの取り組みページ URL: <https://www.fukko-marathon.jp/about/sdgs/>

【本プロジェクトに関するお問い合わせ】
東北・みやぎ復興マラソン事務局
佐藤、村岡
TEL:022-796-4818
FAX:022-267-1277
MAIL:info@fukko-marathon.jp